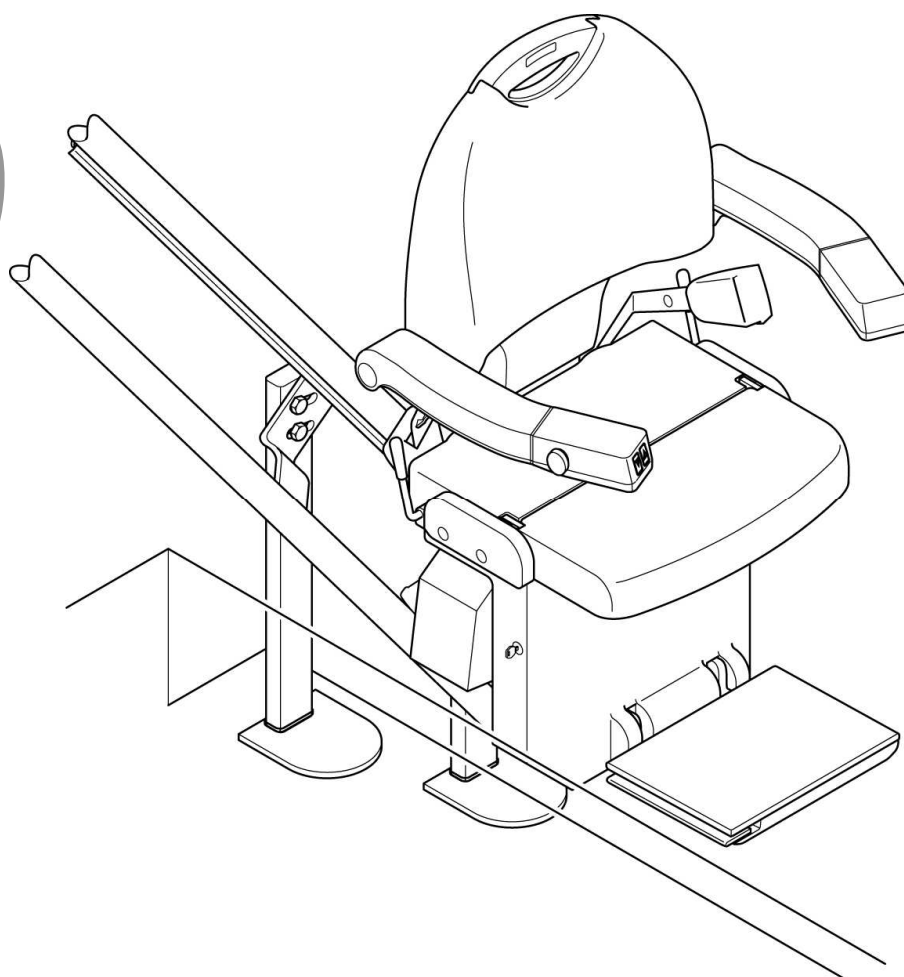


取扱説明書

階段昇降機曲線タイプ

NRE9 (屋内仕様)

NR09 (屋外仕様)



本製品の操作を行う時は、取扱説明書に指示されている安全に関する注意事項をすべて遵守してください。取扱説明書を紛失したり、注意シールが剥がれたり汚損した場合は、お買い上げいただいた販売店へご連絡いただきますようお願いいたします。

はじめに

このたびは弊社の製品「NRE 9・NRO 9」をお買い上げいただきましてありがとうございます。
本書は「NRE 9・NRO 9」のお取り扱いについて説明しています。ご使用になる前に必ずこの説明書を熟読いただき、手順や注意事項を十分に理解された上でご使用ください。

安全に長く製品をご利用いただくため、日常のお手入れや点検を確実に行っていただき、エラーやご不明な点が生じた場合は販売店までご連絡ください。

なお、この取扱説明書は大切に保管していただき、万一紛失された場合は速やかに請求してください。
どうぞ末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目 次

| | |
|---------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| 目 次 | 1 |
| 1. 使用目的 | 2 |
| 2. 危険・警告・注意事項 | 2 |
| 3. 一般的な安全遵守事項 | 3 |
| 4. 使用上の注意 | 3 |
| <階段昇降機> | 3 |
| <バッテリー充電器> | 6 |
| 5. 各部の名称と機能 | 7 |
| 6. 始動点検 | 11 |
| 7. 使用方法 | 12 |
| 7-1 運転準備 | 12 |
| 7-2 本体への乗り込み | 13 |
| 7-3 階段昇降機の運転（昇降および停止操作） | 15 |
| 7-4 階段昇降機から降りる・移乗する | 16 |
| 7-5 階段昇降機の使用後 | 17 |
| 8. バッテリー充電器について | 18 |
| 8-1 バッテリーの操作 | 18 |
| 8-2 表示ランプについて | 18 |
| 9. 日常のお手入れ | 19 |
| 10. 安全装置 | 20 |
| 10-1 安全装置の種類と名称 | 20 |
| 10-2 安全装置の機能確認とエラー表示について | 21 |
| 10-3 エラー時の音声案内およびアラームについて | 21 |
| 10-4 安全装置の種類と機能および対処方法 | 22 |
| 11. 音声案内一覧表 | 25 |
| 12. 定期点検 | 27 |
| 12-1 定期点検項目 | 27 |
| 13. 定期交換部品 | 30 |
| 14. 仕様・本体寸法 | 31 |
| 15. 廃棄 | 32 |
| 16. 設置（据付）および移設について | 32 |
| 17. 商品保証規定 | 32 |
| 18. アフターサービスについて | 33 |

1. 使用目的

本製品は、使用者が座位で乗った状態で安全で楽に階段の昇降をするためのものです。本来の目的以外に使用しないでください。




2. 危険・警告・注意事項

本製品をご使用いただくうえで、人身事故などを防止するための重要な事柄が記載されています。必ずよく読み十分理解してからご使用ください。

＜本文中のマークおよび警告ラベルについて＞

この取扱説明書では、「危険」「警告」「注意」について次のような定義と警告表示を使用しています。警告表示は安全運転のために重要な事柄です。


人身事故や財産損害防止のための重要な事柄が記載されていますので、必ず理解してから本製品をご使用ください。

| | |
|---|---|
|  危険 | 取り扱いを誤った場合に使用者が死亡、または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。 |
|  警告 | 取り扱いを誤った場合に使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される場合。 |
|  注意 | 取り扱いを誤った場合に使用者が傷害（※1）を負う危険が想定される場合、および物的損害（※2）のみの発生が想定される場合。 または警告事項より危険の可能性が低い場合。 |

※1 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などをさします。

※2 物的傷害とは、機械の損傷および周辺の設備にかかわる拡大損害をさします。

なお、この取扱説明書では、下記のように本製品の特長を説明しています。
よくお読みいただき、快適に本製品をご使用ください。

| | |
|---|-----------------------------|
|  | 快適な昇降を実現するための本製品の特長を示しています。 |
|---|-----------------------------|

3. 一般的な安全遵守事項

1. 取扱説明書をよく読み、十分理解してからご使用ください。
2. 本製品の操作は、使用方法を熟知した人に限定してください。
3. 始動点検および定期点検は、取扱説明書に従って必ず実施してください。
4. 運転時に、異音発生など普段と異なる状態が発生した時は直ちに本製品の使用を禁止し、お買い上げいただいた販売店に連絡して点検を受けてください。
5. 本製品を荷物の上げ下げなどの目的に使用しないでください。

4. 使用上の注意

<階段昇降機>

| ⚠ 警告 | |
|---|---|
|  | 使用する前には、取扱説明書をよく読んでください。 ※重要な注意事項が説明されています。 警告・注意事項を守らない場合、重大な事故につながります。 |
|  | 車イスから座席への乗り移りは、安全確保のため必ず介護者の補助を受けてください。 ※転落する危険があります。 |
|  | 車イスから座席への乗り移りは、必ず車イスの車輪を固定してから行ってください。 ※転落する危険があります。 |
|  | 座席、足乗せ台には絶対に飛び乗らないでください。 ※転落による死亡または重傷の危険があります。 |
|  | 乗り込む時は、座席がしっかり固定されていることを確認してください。 ※乗り込む時に座席が回転して使用者が転落する危険があります。 |
|  | 運転席にはシートベルトを身体に合わせてしっかり締めてください。 ※転落による死亡または重傷の危険があります。 |
|  | 肘掛けや座席に立ったり、ぶら下がったりしないでください。 ※転落による死亡または重傷の危険があります。 ※誤作動が原因で、思わぬ事故が発生します。 |
|  | ローラー部分には絶対に手足や異物などを入れないでください。 ※ケガまたは昇降機の破損につながります。 |

警告

- 本製品に水をかけたり、濡れた手で操作しないでください。
漏電、感電するおそれがあります。
- 充電部には手を触れないでください。感電するおそれがあります。
- ローラー部分には絶対に手足や異物等を入れないでください。

注意

- 取扱説明書をよく読み、十分理解して正しい方法でご使用ください。
- 定格能力を守ってご使用ください。
- 改造は絶対に行わないでください。故障の原因になります。
- レール周辺に人や物等がないことを確認してから運転してください。
- 緊急時を除き・上・下階以外で乗り降りしないでください。
- 本機を使用しない時は充電場所へ移動させキーを抜いておいてください。
- 走行時衣類等が座面より下部に垂れないようにしてください。
本機駆動部に巻き込むおそれがあります。
- 肘掛け、足乗せ台、座席の折りたたみは丁寧に行ってください。
故障につながります。
- 肘掛け、足乗せ台、座席の折りたたみ、および回転をさせる際は、手・足・衣類等の
はさみこみに十分注意して行ってください。
- パイプレール下部に付けられたラックには、若干の油分があります。
衣服等が触れないように注意してください。
- 異常が認められた場合には直ちに使用をやめ、お買い上げいただいた販売店に点検・
修理を依頼してください。
その際、本機正面上部の表示数字を一緒にお知らせください、
- 十分な機能を維持するため、取扱説明書に従って、定期的な定期点検を実施してください。

⚠ 注意

- 乗員は一人とし、体重 92kg を超える人は乗らないでください。
- 本製品には人以外の荷物を乗せないでください。
- 本体をゆらしたり、強い衝撃を与えないでください。エラーにつながります。
- 本製品を使用しない時は充電場所へ移動させキーを抜いておいてください。
- 本製品は取扱説明書にある正しい姿勢で使用してください。
- わき見をしながらの操作は絶対にしないでください。
- 小刻みなスイッチ操作は行わないでください。
- ラックカバーをめくったり、引っ張ったりしないでください。外れて本体に巻き込むおそれがあります。
- レール内のローラー走行部分およびラックには、若干の油分があります。衣服等が触れないように注意してください。
- レール上には物を置かないでください。
- レールは塗装ですので傷つかないように扱ってください。
- 充電中に充電端子に触れたり、物を接触させないでください。感電、発熱、発火、破損の原因になります。
- 満充電になっても充電器をコンセントから抜かないでください。昇降機を使用しなくても電力を消費するため、バッテリー上がりの原因になります。
- 指定のバッテリー以外は使用しないでください。液漏れ、発熱、発火、破損の原因になります。

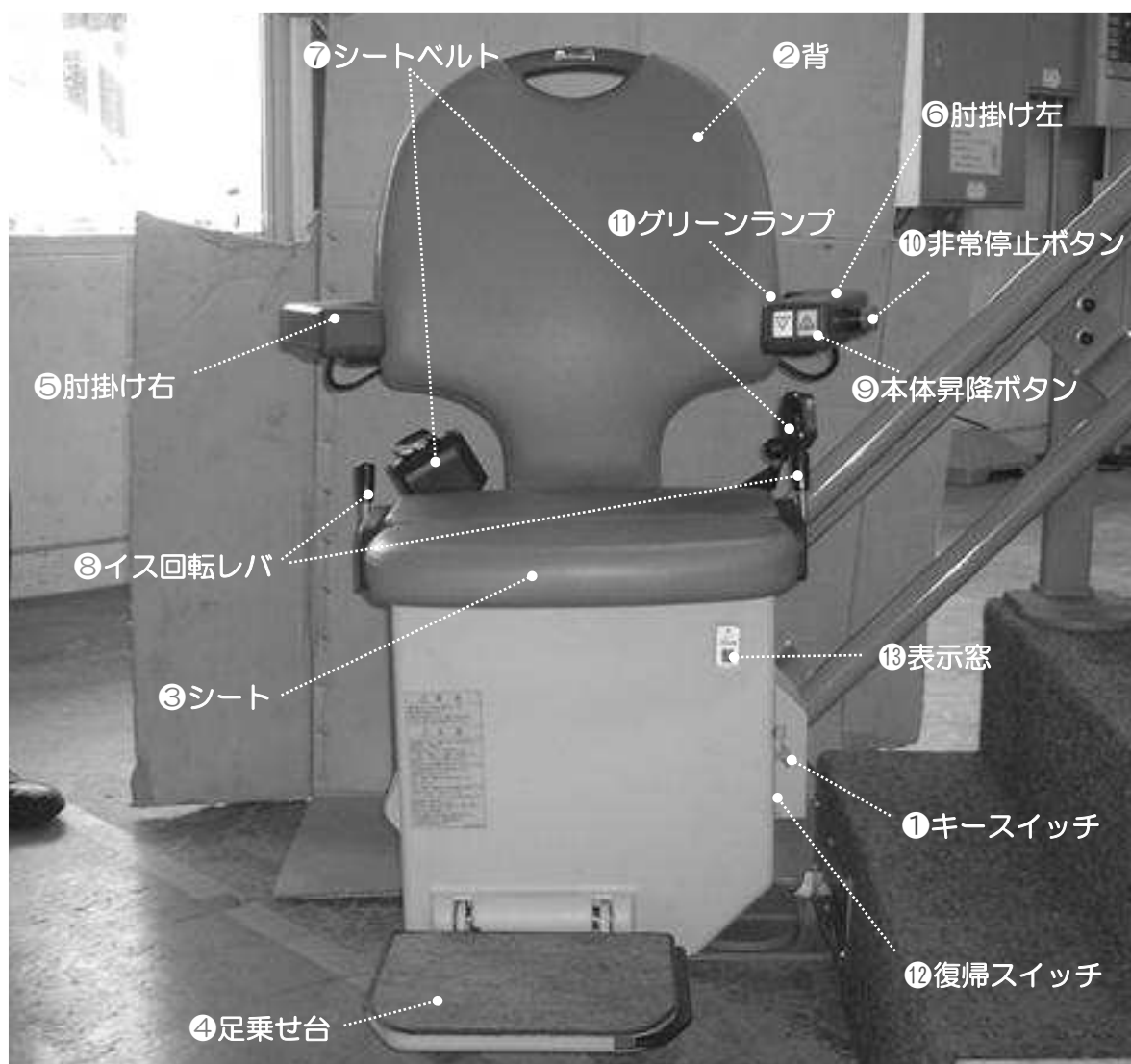
＜バッテリー充電器＞

⚠ 注意

- 分解、改造はしないでください。発火、破損の原因となります。
- 充電中に充電端子に触れたり、物を接触させないでください。
- 濡れた手で充電器、電気コードや電源プラグ、コンセントに触れないでください。感電の原因となります。
- 指定のバッテリー以外は充電しないでください。液漏れ、発熱、発火、破損の原因となります。
- 火気、振動、ほこり、湿気、直射日光、塩害、水分などは避けてください。発熱、発火、破損の原因となります。
- 周囲温度が0～40℃の範囲の屋内でご使用ください。屋外では使用しないでください。発熱、発火、破損の原因となります。
- 煙が出る、異臭がするなどの異常がある場合は、ただちに電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 幼児の手の届く場所に置かないでください。けがなどの事故の原因となります。
- バッテリー充電器の取扱説明書を必ず使用前に読んで正しく使用してください。
- この装置には AC100V 電圧が必要です。供給電源と一致していることを確認してください。
- 電源コードを抜く前に充電器とバッテリーをつなぐコード類をすべて抜いてください。
- 暑い場所および雨・湿気・ほこりにさらされる場所での使用はおやめください。
- 燃えやすいものの近くに置かないでください。
- 正常な作動のために、通気が十分行われるようにしてください。
- 充電中、ガス（気体）を発生します。火気や煙、電気から遠ざけてください。
- コードは無理に曲げないでください。また、水分に浸されず、傷のつかない安全な場所に置いてください。
- 正常な作動を保証するために、すべての接続を適宜調べてください。不適切な接続、ゆるんだ接続および損傷のある状態での接続のもとに、本製品を使用することを禁止します。使用した場合、発火事故や人身事故を起こす可能性があります。万一に備えて、知識のあるサービススタッフに目を通してもらえるよう、相談してください。

5. 各部の名称と機能

＜階段昇降機全体＞



① キースイッチ

本体の電源を「入（動）」「切（止）」するスイッチです。

キースイッチにキーを差し込み「動」に切り替えると電源が入り、階段昇降機の操作が可能となります。キーを「止」に切り替えると電源が切れます。

本製品を使用しない時は「止」にして電源を切っておいてください。



②③ 背／シート

本製品を使用する際はイスの背に当たるようシートに深く座ってください。

④ 足乗せ台

本製品を使用する際は足乗せ台に足を乗せてください。※足乗せ台は折りたたむことができます。

⑤⑥ 肘掛け（右・左）

本製品を使用する際は肘掛けを使い、体を安定させてください。※肘掛けは上げて収納することができます。なお、片側の肘掛けには「本体昇降ボタン」「非常停止ボタン」および内側に「グリーンランプ」が付いています。→⑨⑩⑪参照

⑦ シートベルト

本製品を使用する際は必ずシートベルトをして体を固定してください。

シートベルト収納部（右側）からベルトを引き出し、左側の差し込み口に差し込みます。

シートベルトを外す際は差し込み口横のボタンを押してください。（ボタンを押すとシートベルトが勢いよく巻き上げられることがありますのでご注意ください）

⑧ イス回転レバー

イスの向きを上階側で 55 度または 90 度回転させるためのレバーです。

左右のレバーを奥に倒した状態でイスの向きを 55 度または 90 度回転させることができます。

レバーは手を離すと自動で戻ります。

⑨ 本体昇降ボタン

階段昇降機を昇降させるボタンです。

上…上がる 下…下がる

⑩ 非常停止ボタン

押すと直ちに昇降動作が停止します。（ボタン操作不可）

停止状態で非常停止ボタンを右（時計回り）に回すと解除され、本体昇降ボタンの操作ができるようになります。

⑪ グリーンランプ

キースイッチを「入（動）」にすると緑点灯します。

キースイッチを「切（止）」にした時や非常停止ボタンを押した時は消灯します。

※グリーンランプが点灯していないと階段昇降機の操作はできません。

⑫ 復帰スイッチ

安全装置のオートオフにより停止した場合に、操作を復帰させるボタンです。

キースイッチの下側に付いています。（オートオフ…P22 参照）

⑬ 表示窓

・充電中 LED ランプ（黄）

充電の開始後、約 1 分間点灯します。

・充電レベル LED ランプ

充電位置以外に停止させ確認してください。

緑色 LED ランプ：バッテリーの充電は良好

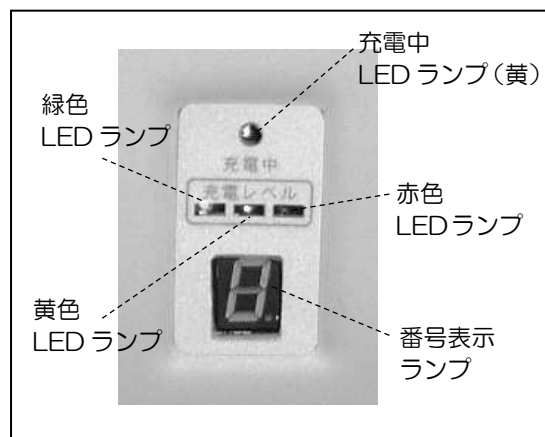
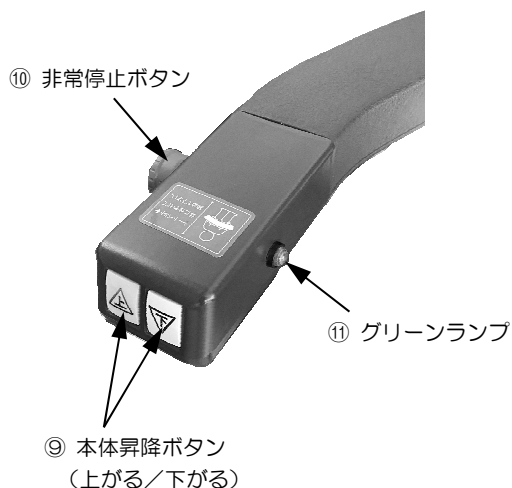
黄色 LED ランプ：バッテリーの充電は不十分

赤色 LED ランプ：バッテリーの充電不足

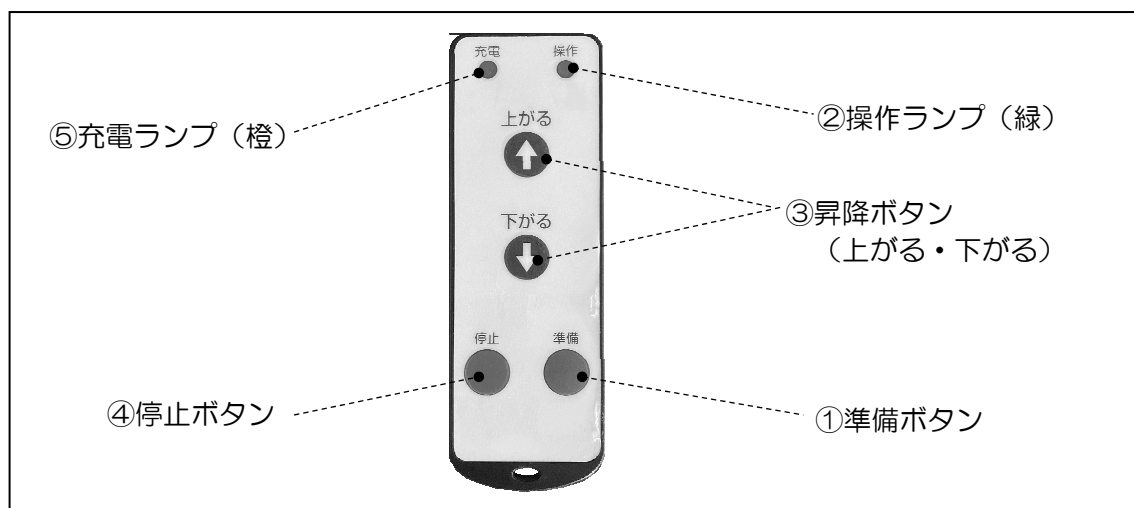
※階段昇降機の作動中は負荷により表示 LED ランプが変化しますので、赤色 LED ランプが点灯しても特に異常ではありません。

・番号表示ランプ

エラー番号を表示します。詳しくは P21～P24「安全装置」を参照してください。



＜呼び戻しスイッチ＞



① 準備ボタン

階段昇降機の操作を可能にするボタンです。

呼び戻しスイッチにて操作する際に1秒程長押しすると電源が入り、操作可能になります。

操作可能状態から1秒程長押しすると、呼び戻しスイッチの電源を切ることができます。

② 操作ランプ（緑）

準備ボタンを押し、スタンバイ状態（階段昇降機が操作可能）になるとゆっくり点滅します。

スタンバイ状態から電源を切ると、早点滅（5回）した後に消灯します。

※操作ランプが消灯している場合は昇降ができません。

準備ボタンを押しても消灯している場合は、呼び戻しスイッチの充電不足の状態です。

速やかに充電を行ってください。（呼び戻しスイッチの充電方法…P10 参照）

③ 昇降ボタン

階段昇降機を昇降させるボタンです。 上…上がる 下…下がる

④ 停止ボタン

階段昇降機の動作を止めるボタンです。操作を再開する場合は再度停止ボタンを押してください。

⑤ 充電ランプ（橙）

呼び戻しスイッチの充電ランプは充電器に接続していない状態では通常消灯しています。

充電を始めると点滅し、充電が完了すると点灯します。（呼び戻しスイッチの充電方法…P10 参照）

●誤操作防止機能

操作ランプが消えている状態で、「上がるボタン」を押しながら「準備ボタン」を押すと、操作ランプが早点滅します。ボタンを離すと操作ランプは消灯して特殊停止状態となり、通常の準備ボタンを押すだけでは起動させることができなくなります。

復帰するには、「下がるボタン」を押しながら「準備ボタン」を押します。操作ランプが点滅（ゆっくり点滅）になり、通常の呼び戻しスイッチ操作ができるようになります。



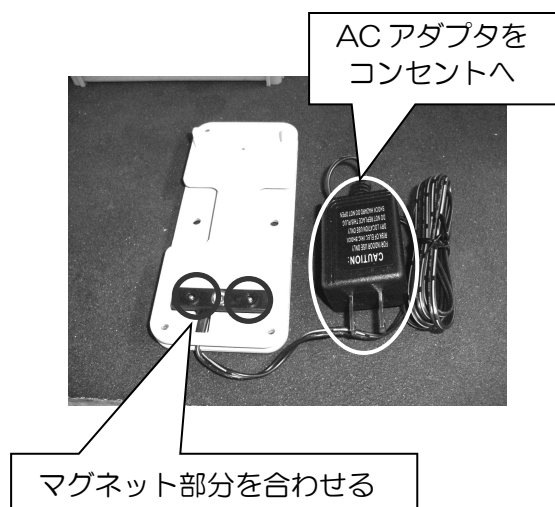
●移乗の介助時や、呼び戻しスイッチの誤操作防止等にご利用ください。

●呼び戻しスイッチの充電方法

充電残量が完全になると充電ランプは消灯します。

また、準備ボタンを1秒間程長押ししても操作ランプが点滅しない時も充電が必要です。

- ① 充電器の電源プラグをコンセントへ差し込み、充電器先端部を呼び戻しスイッチ裏面のマグネット部分へ吸着させて充電を開始します。
- ② 充電を始めると充電ランプ（橙）が点滅します。
※充電時間は空の状態からおよそ4時間です。
- ③ 充電が完了すると充電ランプ（橙）が点灯に変わります。



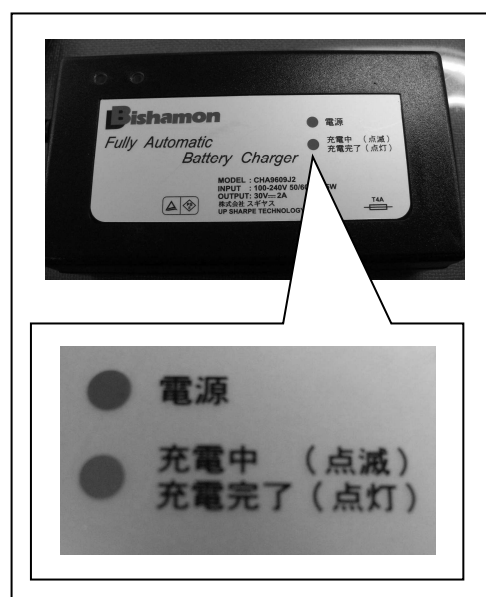
| | |
|-------------|--|
| ⚠ 注意 | <p>バッテリーを長持ちさせる仕様のため、<u>満充電に近い状態で充電器にセットしても充電は開始されません。（充電ランプは点滅も点灯もしません）</u></p> <p>ただし、その状態でも充電が減れば自動的に充電は開始され、充電ランプも点滅します。</p> |
|-------------|--|

| | |
|-------------|--|
| ⚠ 注意 | <p>端子の+・-でコンセント部の形状が違います。しっかりはまるのを確認してください。無理に差し込みを行なうと、故障や発煙等につながります。</p> |
|-------------|--|

<バッテリー充電器>

バッテリー充電器のLEDランプの表示を下表に示します。

| | 電源ランプ | 充電ランプ |
|------------------------|-------|--------|
| 電源入（動）時 （バッテリー未接続） | ○ | ×（点滅後） |
| 電源入（動）時 バッテリー接続／満充電 | ○ | ○ |
| 充電中 | ○ | ○（点滅） |



| | |
|-------------|---|
| ⚠ 注意 | <p>充電器の電源プラグが抜けていると、充電ができないためバッテリーが消耗し、動作に支障をきたします。</p> |
|-------------|---|

6. 始動点検

日常運転を安全なものとし、人身事故や故障などを未然に防ぐために運転前に必ず始動点検を行ってください。なお、試運転は人を乗せずに行ってください。



注意

異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまで本製品の使用を禁止し、ただちに販売店へご連絡ください。そのままご使用になると本製品の破損や重大な事故につながる危険性があります。

| 点検箇所 | 点検項目 | 点検方法 |
|---------------------------------------|--|---|
| ・昇降ボタン (本体・呼び戻しスイッチともに) | 正常に作動するか、また手を離れた時に止まるか。 | 人を乗せない状態で昇降。 —作動・目視— |
| ・停止ボタン ・キースイッチ (本体・呼び戻しスイッチともに) | 正常に作動するか。 (作動させて止まるか) | 人を乗せない状態で、本体非常停止ボタン、もしくはその他の停止ボタンを押す、およびキースイッチを「止」にした場合、止まるかを確認。 —目視— |
| ・安全装置 | イスを回転させると止まるか。 | 人を乗せない状態で、イス回転のレバーで止まるかを確認。 —目視— |
| | 足乗せ台の障害物検知装置が作動し止まるか。(上階・下階側面) | 人を乗せない状態で、障害物検知装置を作動させて止まるかを確認。 —目視— |
| | 本体の障害物検知装置が作動し止まるか(上階側面、下階側面、本体下面)。障害物検知の逆方向へは昇降可。 | 人を乗せない状態で、障害物検知装置を作動させて止まるかを確認。 —目視— |
| ・本体 | 昇降時の異音はないか。 | 人を乗せない状態で昇降。 —聴取— |
| | 昇降はスムーズか。 | 人を乗せない状態で昇降。 —目視— |
| | イスが、定位置でしっかり固定されているか。 | イス回転レバーの操作で確認。 —目視— |
| ・呼び戻しスイッチ | 充電ランプ(橙色)の点灯確認。また、準備ボタンを1秒間程長押しした時、操作ランプが点滅しないか。 | P9 参照 |
| ・設置環境 | 障害物、突出物がなく安全に走行できるか。 | 人を乗せない状態で、障害物、突出物の有無を確認。 —目視— ※使用者が搭乗した状態を想定した際、 <u>本体軌道上に安全で十分なスペースが確保できているかを確認してください。</u> 安全確保ができない場合は販売店にご連絡いただき、安全が確保できるまで使用しないでください。 |

7. 使用方法

7-1 運転準備



警告

濡れた手で取り扱わないでください。感電することがあります。



注意

本書の「4 使用上の注意」をよくお読みください。
また、「5 各部の名称と機能」および「6 安全装置」の項目を十分理解したうえでご使用ください。

<本体スイッチ操作>

本体肘掛け内側のグリーンランプが点灯していることを確認してください。グリーンランプが消灯している場合は昇降ができません。



<呼び戻しスイッチ操作>

呼び戻しスイッチの準備ボタンを1秒間程長押しして、スタンバイ状態としてください。操作ランプがゆっくり点滅します。操作ランプが消灯している場合は昇降ができません。
※上記操作をしても、操作ランプが点滅しない場合は充電不足です。充電をしてください。（P10 参照）



<NRO9屋外のみ>

本体カバーを外してください。（弱撥水加工を施していますが、暴雨や強風、浸水時は裏面に雨水が浸透していることがありますので、その場合はシートや背等を拭いてからご使用ください）

7-2 本体への乗り込み

⚠ 危険

乗り込む際、誤って昇降ボタンに触れないよう注意してください。
スイッチに触れると、不意に昇降機が動いて危険です。

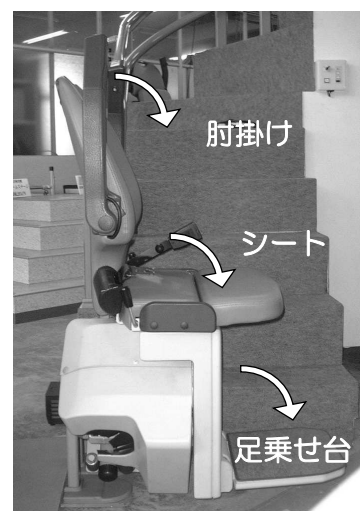
⚠ 警告

運転時には両手でしっかりと肘掛けをつかみ、シートベルトを着用してください。
体の安定が確保できたことを十分お確かめのうえ、操作してください。

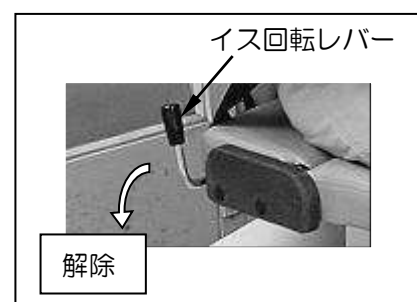
⚠ 注意

イスが回転する際、回転部に手などを挟まないよう注意して「イス回転レバー」
「手すり」「肘掛け」を持ってください。

- ① 本体が折りたたまれている場合は、シート、足乗せ台および左右の肘掛けを静かに降ろしてください。
- ② イスが定位置にしっかりと固定されていて回転しないか確認してください。



- ③ 上階側での乗り込みは、必要に応じてイス回転レバーを操作してイスを回転させてください。
その際、イスがしっかり回転位置（55 度または 90 度）で固定されていることを確認してから乗り込んでください。



<イス回転レバーの操作>

イス回転レバーは、一度レバーを倒すとロックが外れて回転します。（上図）
回転をはじめたらレバーから手を離してください。

一度レバーを倒せばロックが外れ、55 度回転した位置と 90 度回転した位置で、自動でロックされます。（90 度まで回転させたい場合は、55 度の位置で再度レバーを操作してロックを解除してください）※下階側へはイスは回転しません。

⚠ 注意

レバーを倒した状態だとロック解除のままになり、イスが自動でロックされません。必ずレバーから手を離してください。

- ④ イスに静かに深く腰掛け、シートベルトを体に合わせて確実に締めてください。

※シートベルトは、いったん引き出してから途中で止めると、続けて引き出すことができない構造となっています。

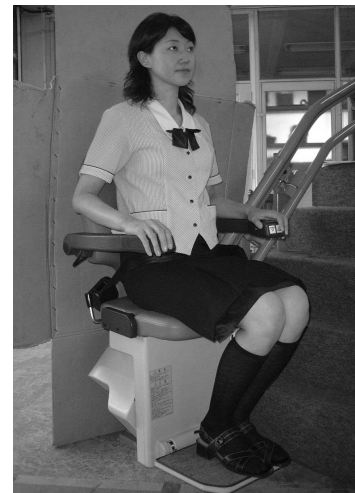
そのため、最初は長めに引き出していただき、戻しながら長さの調整をしてください。



- ⑤ イスを回転させて乗り込んだ場合は、元の位置に戻して定位置にしっかり固定されているか確認してください。

(P13 <イス回転レバーの操作>参照)

- ⑥ 足は足乗せ台の上に乗せ、腕は肘掛けの上に乗せてください。



- ⑦ 足ベルト（オプション）がある場合は付き添いの方が締めてください。かかとが本体にしっかりとくっつくようにし、ベルトのゆるみが無いように締めてください。



⚠ 危険

装着は付き添いの方が必ず行ってください。乗り込む本人が行うと、装着中に前方に倒れこむ危険があります。また、長さの調整が不十分な場合、本体に巻き込まれるなどの事故の原因となります。

⚠ 注意

- 手に荷物・杖などを持ったまま乗り込まないでください。
- つま先は足乗せ台より大きくはみ出さないでください。
- 上昇方向への足のはみ出しが無いようにしてください。
- 本体を大きく揺らさないでください。

昇降スペースが保たれなくなり、階段に挟まるなどの人身事故が生じたり、建物や昇降機本体が破損する可能性があります。

7-3 階段昇降機の運転（昇降および停止操作）

「7-2 本体への乗り込み」に基づき、安定した体勢で階段昇降機に乗られましたら「本体スイッチ」もしくは「呼び戻しスイッチ」にて昇降操作を始めます。

⚠ 警告


レール周辺に人や物等がないことを確認してから運転してください。
また、介護や操作される方は、レールに触れないでください。
（人身事故に繋がるおそれがあります）

- ① 行きたい方向の昇降ボタン（上・下／上がる・下がる）を押してください。
希望の方向へ本体を昇降させることができます。離せばその位置で停止します。

⚠ 注意

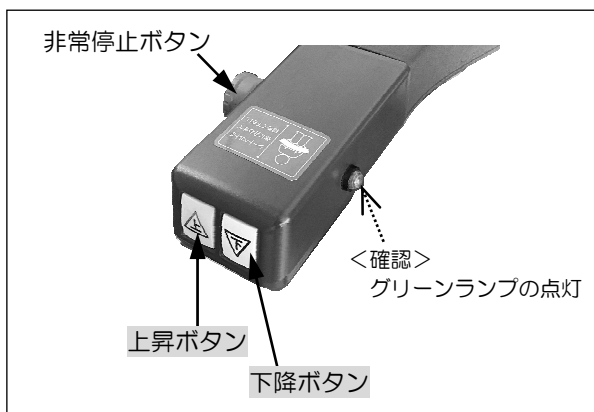
昇降ボタンから指を離しても停止しない場合は、非常停止ボタン／停止ボタンを押してください。

【音声／アラーム】

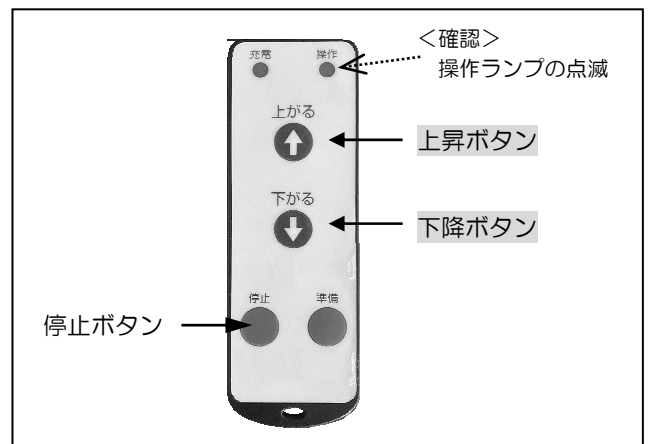
本体スイッチ：「 シートベルトをお締めください上昇（下降）します」

呼び戻しスイッチ：「 上昇（下降）します、ご注意ください ポロロン…」

＜本体スイッチ＞



＜呼び戻しスイッチ＞



- 安全のため、昇降ボタンを押してから約 1 秒後に動きます。
- 上昇ボタンと下降ボタンを同時に押した場合は停止します。
1 秒以上時間を空けてから、押し直してください。



- 速度制御により、始動時にはスロースタートします。
- 呼び戻しスイッチは、足乗せ台・座席が折りたたまれていても、上階・下階に階段昇降機を呼び戻すことができます。

7-4 階段昇降機から降りる・移乗する



危険

座席から車イスへの乗り移りは、必ず車イスの車輪を固定してから行ってください。転落による死亡または重傷の危険があります。



警告

座席から車イスへの乗り移りは、安全確保のため必ず介護者の補助を受けてください。

- ① 希望の階に到着すると、ゆっくりと自動停止します。
自動停止したら昇降ボタンを離し、退出側の肘掛けを持ち上げてください。

【音声／アラーム】

「🔊 到着しました」

「🔊 到着しました。充電を開始します」※到着位置が充電位置の場合



注意

完全に停止するまで昇降ボタンは押し続けてください。
充電が開始されずバッテリーが消耗し、動作に支障をきたします。

- ② 上階側で降りる場合は、必要に応じてイス回転レバーを操作してイスを回転させてください。
その際はイスがしっかり回転された位置で固定されていることを確認してください。
(P13 <イス回転レバーの操作>参照)



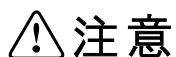
注意

イス回転レバーは、倒せばロックが外れ、55度または90度回転した位置で自動的にロックされますので、回転を始めたら手を離してください。

- ③ シートベルトを外し、肘掛けをつかんで降りてください。

7-5 階段昇降機の使用後


- ① イス回転レバーを操作してイスを回転させた場合は、イスの位置を元の位置に戻してください。
- ② 階段部の通行の邪魔になる場合は、肘掛け、シートおよび足乗せ台を折りたたんでください。
※足ベルト（オプション）がある場合は、上階側のベルトをたるみがないように足乗せ台に挟み込んでください。




注意

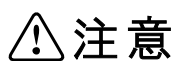
シート、足乗せ台の折りたたみは、イスを元の位置に完全に戻してから行ってください。

- ③ 到着位置が充電位置でない場合は、呼び戻しスイッチで必ず充電位置に移動させてください。
充電位置以外で長時間放置するとバッテリーが消耗し、動作に支障をきたします。

※充電位置でない場所で階段昇降機を停止させた場合は、停止してから5秒後に「 充電位置に戻してください」と音声でお知らせします。必ず充電位置へ戻してください。



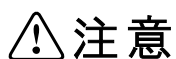
●音声案内を確認後に昇降ボタンを離してください。「 到着しました。充電を開始します」



注意

充電位置に戻したら、バッテリー充電器の充電ランプが緑色に点滅しているのを確認してください。

- ④ 階段昇降機をご使用にならない時はキーを抜いておいてください。



注意

誤操作などの事故防止のため、使用後は必ずキーを抜いてください。
キーは「止」の位置にすると容易に抜けるように設計されています。

<NRO9屋外のみ>

- ⑤ 本体カバーを被せてください。

8. バッテリー充電器について

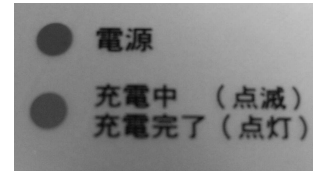
8-1 バッテリーの操作

電源コードを 100V 電源につないでください。



バッテリー充電器上面

表示ランプ



●バッテリー充電器を電源につないでおくことで、階段昇降機が充電位置に停止した際に、昇降操作等で消費した電力を自動で供給します。

8-2 表示ランプについて

<電源ランプ（赤色）>

電源ランプは、電源が入った状態で常時点灯しており、通常の状態であることを表わしています。点滅・消灯は以下のような状態を表わしています。

- ・電源コードがコンセントにつながれていない。
- ・階段昇降機の電源が切れている。
- ・出力ヒューズが切れている。

<充電ランプ（緑色）>

充電ランプは常時点灯しており、通常の状態であることを表わしています。

なお、階段昇降機が充電位置にない時は消灯します。

充電中は点滅に変わり、充電が完了すると点灯します。

9. 日常のお手入れ

本製品を末永くご使用いただくために、日常のお手入れについて案内しています。日常のお手入れの際に不具合箇所を発見された場合は、お買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

⚠ 危険

お手入れの際には本体のキースイッチを「止」の位置にしてから作業してください。誤操作が原因で思わぬ事故が発生することがあります。

⚠ 注意

- 本製品の清掃においては、ベンジン・シンナー類、研磨剤などは使用しないでください。素材表面を傷めます。
- スイッチ類の清掃は、濡れた布などで行わないでください。スイッチ内に水が浸入すると故障の原因になります。
- 階段部に窓、または屋外との通行用扉がある場合、屋外からほこり、雨水などがレールに付着して滑りやすくなったり、階段昇降機の他の部分に雨水がかかるおそれがある場合には、窓または扉の開閉に注意するとともに、レールに付着したほこり、または雨水を目視で確認し清掃してください。

| 清 掃 箇 所 | 清 掃 方 法 |
|-------------------|---|
| ビニールレザー部 | 硬く絞った布で拭いてください。 頑固な汚れの場合は、中性洗剤を含ませた布で拭いてください。 |
| 塗装された金属およびプラスチック部 | 硬く絞った布で拭いてください。 頑固な汚れの場合は、中性洗剤を含ませた布で拭いてください。 |
| レール部 | 硬く絞った布で拭いてください。 頑固な汚れの場合は、ナイロン製スポンジを適度に湿らせて拭くか、中性洗剤を含ませた布で拭いてください。ローラーがレールを摺動しているので、長年の使用により塗装の一部がはがれることもあります。 |
| ラックカバー (オプション) | 硬く絞った布で表面を軽く拭いてください。 ラックカバーをめくったり、引っ張ったりしないでください。 たるみ、外れおよびキズが無いか確認してください。 |

<呼び戻しスイッチの電池交換>

充電してもすぐに充電ランプが点滅するなど、電池の劣化が激しい場合は、電池交換が必要となります。なお、完全防水構造のためお客様での電池交換はできません。

お買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

有償になりますが、メーカーにて責任をもって作業させていただきます。

10. 安全装置

本製品には使用者が安心かつ安全に使用していただけるよう、安全装置が装備されています。

安全装置が作動すると安全確保のため動作を中断し、エラー表示をします。

ここでは安全装置の種類と機能、また安全装置が作動して階段昇降機の動作が停止したり、操作が継続できなくなった場合の対処方法を説明します。

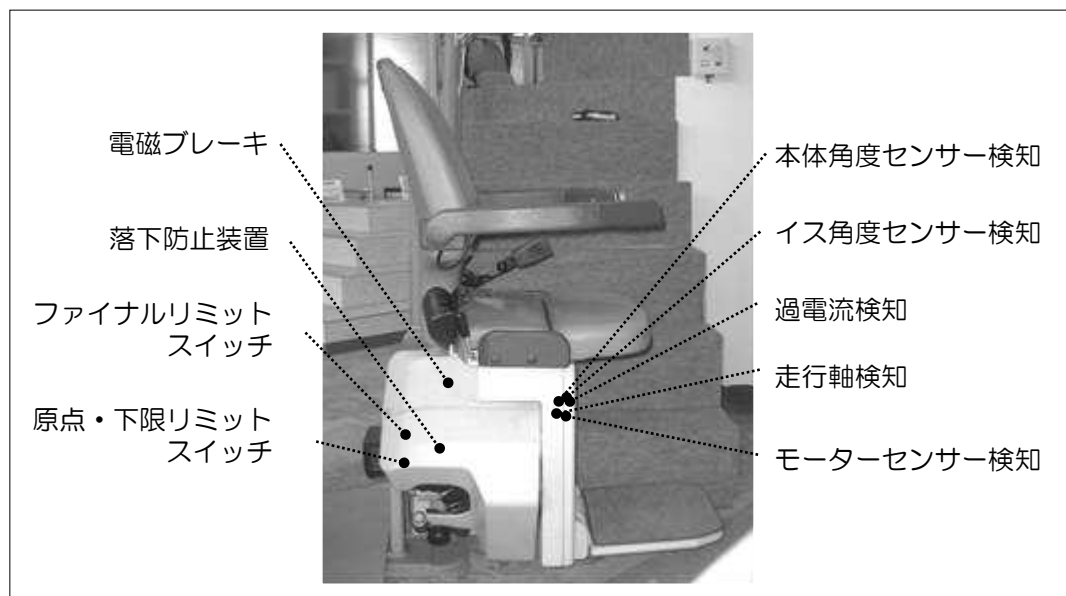
なお、お客様で対処ができない状態の場合は、速やかに販売店へご連絡ください。

10-1 安全装置の種類と名称

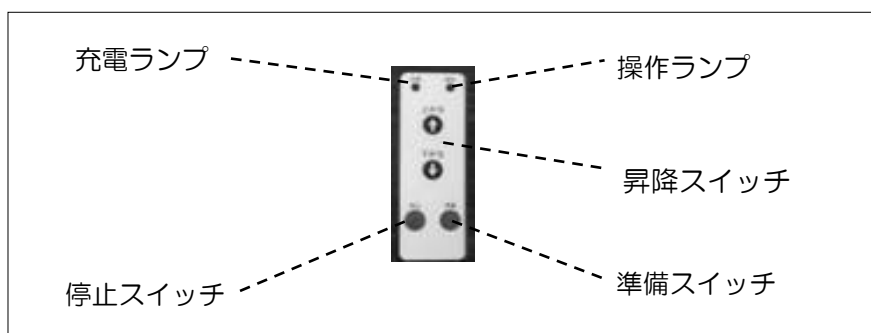
<階段昇降機全体>



<イス部側面>



<呼び戻しスイッチ>



10-2 安全装置の機能確認とエラー表示について

安全装置の作動状態はボディの階下側下部にある表示窓で確認できます。“0”の点灯が正常です。表示窓から見える表示数字には「点灯」「点滅」の2通りがあります。

点灯している場合はお客様で対処可能な状態ですが、点滅している場合はお客様では対処が難しい状態を表しています。

対処方法につきましてはP22～P24をご参照ください。

安全装置の作動が複数ある場合はエラー数字が若い順に表示され、数字の右下に“.”（ドット）が点灯します。対応するエラー数字の原因を対処すると次の数字に変わっていき、すべて対処されると“0”の点灯になり完了します。

例）表示が

| | | | |
|---|---|---|---|
| E | — | 2 | 1 |
|---|---|---|---|

 の順番に表示された場合は「E-21」を表します。



10-3 エラー時の音声案内およびアラームについて

安全装置が作動してエラーになった場合、エラーの種類によってエラー数字の表示とともに音声でエラー内容を案内します。

また、昇降動作途中で異常が発生して停止する場合、または異常が発生して停止中に昇降ボタンを押した場合にアラームを鳴らして知らせます。

※音量の調節ができますので販売店にご連絡ください。

※音声案内はエラー時だけでなく、通常時も流れます。詳しくはP25「11. 音声案内一覧表」をご参照ください。

10-4 安全装置の種類と機能および対処方法



●エラー表示なし

| 安全装置 | 機 能 | 対処方法 |
|--------|---|--|
| オートオフ | 充電位置以外で 10 分以上停止していた場合に自動で電源を切る装置。 | 復帰スイッチを押してください。(P8 参照) それでも電源が入らない場合はバッテリーの容量が不足していますので、販売店へご連絡ください。 |
| イス角度検知 | イスの角度が 10 度以上倒れた、または本体への衝突、地震などで本体が揺れた場合、自動的に本体の昇降を停止させる装置。 | 販売店へご連絡ください。(エラー表示がないことをお伝えください) |


●エラー表示点灯

| エラー 数字 | 安全装置 | 機 能 | 対処方法 |
|-----------|--|---|--|
| 1 | 非常停止ボタン (本体) | 使用者が危険を感知した時に動作停止させるボタン。 | 非常停止ボタンを解除してください。(P8 参照) |
| 1 | キースイッチ (本体) | 不用意な昇降やいたずらなどを防止する装置。 | 本体のキースイッチを差し込み、「動」にしてください。(P7 参照) |
| 2 | 停止ボタン (呼び戻しスイッチ) | 使用者が危険を感知した時に動作停止させるボタン。 | 停止ボタンを再度押してください。(P9 参照) |
| 3 | イス位置検知 | イス回転時に操作不能となる位置検知装置。 | イスを正面に戻してください。エラー解除できない場合はイス回転レバー (P8 参照) を上下させ、固定位置を確認してください。 |
| 5 | 接触式障害物検知 (足乗せ台上側側面) (後部上階側樹脂カバー) | 階段と足乗せ台の間の障害物およびレール回りの障害物を検知して停止させる装置。 (上昇操作中) | 昇降ボタンを操作して障害物の反対側へ移動し、障害物を取り除いてください。 |
| 6 | 接触式障害物検知 (足乗せ台下側側面) (後部上階側樹脂カバー) | 足乗せ台下側側面の障害物およびレール回りの障害物を検知して停止させる装置。 (下降操作中) | |
| 7 | 接触式障害物検知 (本体下面) | 本体下面フラップで障害物を検知して停止させる装置。 | |
| 9 | シートベルト (オプション) ※標準装備のシートベルトにはこの表示機能はありません。 | シートベルトが外れていると昇降できない装置。但し、呼び戻しスイッチ操作時はいずれの場合も昇降可能。 | イスに座ったらしっかりとシートベルトを締めてください。 |

●エラー表示点滅

| エラー 数字 | 安全装置 | 機 能 | 対処方法 |
|-----------|-------------------|--|--|
| E-01 | ファイナルリミット スイッチ | 本製品が上下限位置で停止せず行きすぎた場合、また障害物でスイッチが押された場合に緊急停止させる装置。 | 表示番号を販売店へご連絡 ください。  |
| E-03 | 走行軸過回転検知 | 走行モーターの回転が規定値を超えた場合に、自動的に本体の昇降を停止させる装置。 | |
| E-04 | イス角度検知 | イスの角度が5度以上倒れた、または本体への衝突や地震などで本体が揺れた場合に、自動的に本体の昇降を停止させる装置。 | |
| E-05 | 落下防止装置 | 不測の事態により、駆動シャフトが設定値以上に回転して本体が急降下した場合に、自動的に緊急停止させることで落下を防止する装置。 | |
| E-06 | バッテリー低電圧 検知 | バッテリーの電圧が低電圧（20V 以下）になったことを検知して停止させる装置。 | |
| E-09 | 走行軸モーター センサー検知 | 走行モーターの回転センサーの異常信号を検知して停止させる装置。 | 表示番号を販売店へご連絡 ください。  |
| E-10 | 本体角度センサー 検知 | 駆動傾斜センサーの異常信号を検知して停止させる装置。 | |
| E-11 | イス角度センサー 検知 | イス傾斜センサーの異常信号を検知して停止させる装置。 | |
| E-12 | 原点ズレ検知 | 階段昇降機の原点位置情報のズレを検知する装置。 | |
| E-13 | 進行方向の間違い 検知 | 階段昇降機の操作方向と進行方向の違いを検知して停止させる装置。 | |

●エラー表示点滅

| エラー 数字 | 安全装置 | 機 能 | 対処方法 |
|-----------|-----------------|--|--|
| E-15 | 走行軸過電流検知 | 走行モーターの運転電流が規定値（20A）を超えた場合、回路保護のため自動的に本体の昇降を停止させる装置。 | <p>本体キースイッチを止／動でリセットしてください。</p> <p>人が乗っていない状態で充電位置へ戻して充電を行ってください。</p> <p>人が乗っていない状態でも動かない場合は販売店へご連絡ください。</p> |
| E-16 | イス回転軸過電流検知 | イス回転モーターの運転電流が規定値（15A）を超えた場合、回路保護のため自動的に本体の昇降を停止させる装置。 | |
| E-17 | 走行軸過電流検知 | 走行モーターの運転電流が規定値（18A 以上 0.5 秒継続）を超えた場合、回路保護のため自動的に本体の昇降をプログラムで停止させる装置。 またはバッテリーの電圧が低電圧の時、昇降を停止させる装置。 | |
| E-21 | 走行軸モーターセンサー検知 | 走行モーターの回転センサーの信号の異常を検知して停止させる装置。 | <p>表示番号を販売店へご連絡ください。</p>  |
| E-22 | イス回転軸モーターセンサー検知 | イス回転モーターの回転センサーの信号の異常を検知して停止させる装置。 | |
| E-50 | マイコン通信不良検知 1 | 主基板のマイコンどうしの通信の障害を検知する装置。 | |
| E-51 | マイコン通信不良検知 2 | 主基板とティーチング基板のマイコンどうしの通信の障害を検知する装置。 | |
| E-52 | 原位置誤差検知 | 位置情報の誤差を検知する装置。 | |

1 1. 音声案内一覧表

本製品は下記の音声案内機能を備えています。

不必要な場合は音量の調節および停止ができますので、販売店にご連絡ください。

<停止アラーム>

昇降動作途中で異常が発生して停止する場合、または異常が発生して停止中に昇降ボタンを押した場合にアラームを鳴らして知らせます。

<音声案内>

| | 音声 | 内容（繰り返し回数） |
|---|---|---|
| 1 | 「バッテリー不足になりました。 充電位置に戻してください」 | 階段昇降機が昇降動作途中でバッテリー電圧が20V以下に低下して停止した場合。 または電圧低下にて停止中に昇降ボタンを押した場合（2回） |
| 2 | 「イスを回転させて、元の位置に 戻してください」 | イスを正面以外の向きに向けたままで昇降ボタンを押した場合。 または昇降ボタンを押しながらイスを回転させた場合（2回） |
| 3 | 「上昇できません、障害物を取り 除いてください」 | 階段昇降機が上昇中、足乗せ台の上階側と階段の間、上階側カバーと階段の間、フロントユニット下面と階段の間に人や物が挟まって安全装置が作動した場合。 または安全装置が作動中に昇降ボタンを押した場合（2回） |
| 4 | 「下降できません、障害物を取り 除いてください。」 | 階段昇降機が下降中、足乗せ台の上階側と階段の間、上階側カバーと階段の間、フロントユニット下面と階段の間に人や物が挟まって安全装置が作動した場合。 または安全装置が作動中に昇降ボタンを押した場合（2回） |
| 5 | 「能力オーバー、またはバッテリー 不足です」 | 階段昇降機が昇降中に走行モーターに流れる電流値が規定値をオーバーした場合。または電流値オーバーで停止中に昇降ボタンを押した場合（2回） |
| 6 | 「呼び戻しの停止スイッチ、キー スイッチまたは折りたたみレール に戻してください」 | 呼び戻しスイッチの停止ボタンやキースイッチが切れている。 または折りたたみレールが起こされている状態で昇降ボタンを押した場合 |
| 7 | 「昇降機の停止スイッチまたは キースイッチに戻してください」 | 階段昇降機の非常停止ボタンやキースイッチが切れている状態で昇降ボタンを押した場合。 または昇降ボタンを押しながら階段昇降機の非常停止ボタンやキースイッチを切った場合（2回） |
| 8 | 「エラーが発生しました、販売店 へ連絡してください」 | 上記に該当しないエラー（上記以外の点滅エラー）が発生した場合（2回） |
| 9 | 「充電位置に戻してください」 | 階段昇降機が異常無く充電位置以外で5秒以上停止した場合。 （充電位置に戻されるまで鳴り続ける） |

| | 音声 | 内容（繰り返し回数） |
|----|----------------------------------|---|
| 10 | 「シートベルトをお締めください、 上昇します」 | 下限、または中間停止で階段昇降機のスイッチを押して上昇させる場合（音声案内終了後に上昇を開始する／途中で再スタートさせる場合には音声案内はしない）（1回） |
| 11 | 「シートベルトをお締めください、 下降します」 | 上限、または中間停止で階段昇降機のスイッチを押して下降させる場合（音声案内終了後に下降を開始する／途中で再スタートさせる場合には音声案内はしない）（1回） |
| 12 | 「到着しました」 | 上限または下限停止位置へ階段昇降機が到着した場合（1回） |
| 13 | 「到着しました。充電を開始します」 | 上限または下限の充電位置へ階段昇降機が到着し、充電を開始した場合（1回） |
| 14 | 「中間停止位置です」 | 中間停止位置へ階段昇降機が到着した場合（1回） |
| 15 | 「中間停止位置です。充電を開始 します」 | 中間の充電位置へ階段昇降機が到着し、充電を開始した場合（1回） |
| 16 | 「バッテリー不足になりました。 充電位置に戻してください」 | 階段昇降機が昇降動作途中でバッテリー電圧が低下した場合。 （走行途中で音声を発生させます。エラーではないので階段昇降機は操作可能）（1回） |
| 17 | 「上昇します、ご注意ください、 ポロロン…」 | 呼び戻しスイッチを押して上昇させている場合。 （スイッチを押している間「ポロロン」のみ鳴り続ける） |
| 18 | 「下降します、ご注意ください、 ポロロン…」 | 呼び戻しスイッチを押して下降させている場合。 （スイッチを押している間「ポロロン」のみ鳴り続ける） |



●音声案内により、表示窓を見なくてもお客様が対応可能な安全装置の動作状態がわかります。

1 2. 定期点検

本製品を安全にご使用いただくため、定期点検を必ず実施してください。

なお、異常が発見された場合には速やかにお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。



注意

異常と思われる箇所が発見された場合は、異常箇所の修復を完全に行うまで本製品の使用を禁止し、直ちに販売店へ連絡してください。そのままご使用になると本製品の破損や重大な事故につながる危険性があります。

1 2-1 定期点検項目

【1ヶ月毎】

| 点検箇所 | | 点検項目 | 点検方法 | 判定基準 |
|----------|-------------------|------------------|----------|---|
| 駆動装置 | 昇降動作 | 作動の確認 | 目視／操作 | スムーズに昇降し支障が生じていないこと |
| | | 異音の確認 | 聴診 | 異常音がないこと |
| | 障害物検知装置（本体） | 作動の確認（上階側面、下階側面） | 目視／操作 | 障害物に接触すると作動し停止すること。また、障害物の反対方向に昇降できること |
| | | 障害物除去後の作動の確認 | 目視／操作 | 操作ボタンを押し直さないと復帰しないこと |
| 座席関係 | 本体昇降ボタン | 作動の確認 | 目視／操作 | 昇降ボタンの操作どおりに昇降すること また、手を離すと停止すること |
| | 非常停止ボタン | 作動の確認 | 目視／操作 | ボタンを押すと直ちに停止すること |
| | キースイッチ | 作動の確認 | 目視／操作 | 「止」にしたときに運転できないこと また、「動」にした場合にキーが抜けないこと |
| | イス回転装置 | 作動の確認 | 目視／操作 | 所定の位置（55度、90度）で回転装置のロックがかかること、また、著しいがたつきがないこと |
| | | インターロック | 目視 | 機械的ロックがかかる前に、リミットスイッチが入らないこと |
| | 障害物検知装置（足乗せ） | 作動の確認（足乗せ両側面） | 目視／操作 | 障害物に接触すると作動し停止すること また、障害物の反対方向に昇降できること |
| | | 障害物除去後の作動の確認 | 目視／操作 | 操作ボタンを押し直さないと復帰しないこと |
| | 障害物検知装置（本体下部） | 作動の確認 | 目視／操作 | 障害物に接触すると作動し停止すること また、上昇ができること |
| | | 障害物除去後の作動の確認 | 目視／操作 | 操作ボタンを押し直さないと復帰しないこと |
| 乗り場および階段 | 乗り場のリモコン式呼び戻しスイッチ | 昇降ボタン等の確認 | 目視／操作／触診 | スイッチ表面シートの剥離がなく、昇降ボタン等が押せる状態であること |
| | | 昇降ボタン等の作動の確認 | 目視／操作 | 昇降ボタンの操作どおりに昇降すること また、手を離すと停止すること |
| | | 停止ボタンの作動の確認 | 目視／操作 | ボタンを押すと直ちに停止すること |
| | | 表示ランプの確認 | 目視／操作 | 準備ボタンを作動すると操作ランプが点灯すること、また、充電器にセット後、充電ランプが点滅すること※ |
| | 充電装置 | 充電の確認 | 目視／操作 | 充電中は充電中ランプ（緑）が点滅し、充電されること |
| | | 充電ピンの確認 | 目視／操作 | 上下のピンが均等に当たっており、しっかりと押し付けられていること |
| | | 端子部の確認 | 目視／触診 | 端子部に緩みがないこと |
| | | 接触子の確認 | 目視／操作 | 接触子に変形、摩耗、腐食、錆がないこと |

※ P10「●呼び戻しスイッチの充電方法」注意 参照

【3ヶ月毎】

| 点検箇所 | | 点検項目 | 点検方法 | 判定基準 |
|------|------------------|-------------|---------------|--|
| 駆動装置 | 駆動部 | 外観 | 目視 | 変形、摩耗、腐食等がないか |
| | ピニオンおよびラック | 潤滑油 | 目視／触診 | 油切れしていないこと |
| | 駆動部のガイドローラー等 | 取り付けの確認 | テストハンマーによる打検等 | がたつき、脱落等がないこと |
| | | 摩耗の確認 | 目視／操作／触診 | 摺動部および回転部の摩耗により昇降に支障が生じないこと、また、異音がないこと |
| | 上下限ファイナルリミットスイッチ | 設置の確認 | 設置の状況を確認 | 所定の位置に設けられていること |
| | | 取付けの確認 | 目視／触診 | 取り付けにがたつき、緩みがないこと |
| | | 作動の確認 | 目視／操作 | レールエンド部材に当たる前に作動すること 作動している状態において昇降機が運転できないこと |
| | 原点・下限リミットスイッチ | 作動の確認 | 目視／操作 | リミットドッグ部材に当たって作動すること |
| | 電磁ブレーキ | 作動の確認 | 目視／聴診 | 昇降ボタンを離した時に「カチャ」という音を確認音の確認後、座席に座って自然降下しないこと |
| 座席関係 | いす部 | いす部の構造および設置 | 目視 | 変形、摩耗、腐食等がないか |
| | シートベルト | 取り付けの確認 | 目視／触診 | 装置の取り付けボルトに緩みがないこと |
| | | ベルトの確認 | 目視 | 変形もしくは破損により切断するおそれがないこと |
| | | 装着の確認 | 目視 | バックルを装着でき、装着した状態を保持できること |
| | いすの折りたたみ機構 | 作動の確認 | 目視 | いすの折りたたみ機構が折りたたまれた状態、また、開いた状態を保持できること |
| | | 損傷の確認 | 目視 | 構成部材の損傷や摩耗等が無く、いすが水平な状態を保持できること |

【12ヶ月毎】（1ヶ月・3ヶ月毎の点検項目に加え、下記事項を点検してください）

| 点検箇所 | | 点検項目 | 点検方法 | 判定基準 |
|------|--------------|--------------------|---|---|
| 駆動装置 | 駆動部の電源遮断 | サーキットプロテクター | 手動操作にて電氣的に開閉を確認 | 電氣的に開閉すること |
| | 運転制御用基板 | 作動の確認 | 昇降機を運転し、作動の状況を確認 | 昇降機が正常に作動すること |
| | 各種ケーブル関係 | 設置および作動の確認 | 目視／操作／触診 | 各ケーブルに変形、傷、断線等がないこと |
| | ヒューズ | 設置の確認 | ヒューズの溶断電流が制御器等で指定されたものと同じことを確認 | 基板上に遮断電流 20A(2ヶ)のブレードヒューズが取り付けられていること |
| | 充電電池 | 作動電圧の確認 | 電圧を電圧計等による測定 | 充電が完了した状態で電源電圧が 24V 以上確保されていること |
| | | 外観 | 目視 | 電解液の漏れがないこと |
| | | 端子部の確認 | 触診 | 端子部に緩みがないこと |
| | | 給電部の保護 | 目視 | 通常の使用状態において給電部に容易に触れられないこと |
| | 絶縁 | モーター、制御器等、回路の絶縁の確認 | 絶縁抵抗計等による測定 | 各箇所 0.1MΩ以上の絶縁抵抗があること |
| | 駆動モーター（減速機付） | 音の確認 | 聴診 | 異常音が無いこと |
| | | 発熱の確認 | 走行直後、触診による確認 | 異常な発熱がないこと |
| | | 振動の確認 | 触診／聴診 | 異常な振動がないこと |
| | | 油漏れの確認 | 目視 | 油漏れがないこと |
| | 電磁ブレーキ | 制動力の確認 | いすに積載荷重の 1.25 倍の荷重を加え、定格速度で下降中に動力を遮断し、制動距離を確認 | 制動距離が 100mm 以内のこと |
| | | ブレーキコイルの発熱の確認 | 触診 | ブレーキコイルに異常な発熱がないこと |
| | ピニオンラック | 取付けの確認 | 目視／触診 | 取り付けにがたつき、緩みがないこと |
| | | 音の確認 | 聴診 | 異常音がないこと |
| | | 振動の確認 | 触診／聴診 | 異常な振動がないこと |
| | | 歯の欠損および亀裂の確認 | 目視 | 歯に欠損または亀裂が無いこと |
| | | 摩耗の状況 | 歯に摩耗がないか、目視および寸法測定による確認 | ピニオン・・・歯の残存厚さが 4.4mm 以上あること ラック・・・歯の残存厚さが 4.1mm 以上あること |
| | | 落下防止装置の確認 | 目視 | レールストッパを回転させ、ツメが作動すること。また、その状態で、昇降スイッチで昇降しないこと |
| | 駆動装置等のカバー | 取り付けの確認 | 目視／触診 | 取り付けにがたつき、緩みがないこと |
| | 速度 | 昇降時の速度の確認 | 無負荷運転時の本体の速度を瞬間式回転速度計等により測定 | 7.5m/min を超えないこと (定格速度 6m/min の 125%) |

※上記の定期点検に加え年に2度、専門業者による定期点検の実施をしてください。

詳しくは販売店までお問い合わせください。

1 3. 定期交換部品

機械の安全性を維持するため、また故障等を未然に防ぐために、下記部品の定期的な交換が必要です。

※交換時期は目安であり、部品の保証期間を示しているわけではありません。

また、機械の使用状況および使用環境により、下記に示した時期より早い期間での交換や、ここに挙げられていない部品の交換が必要になる場合があります。

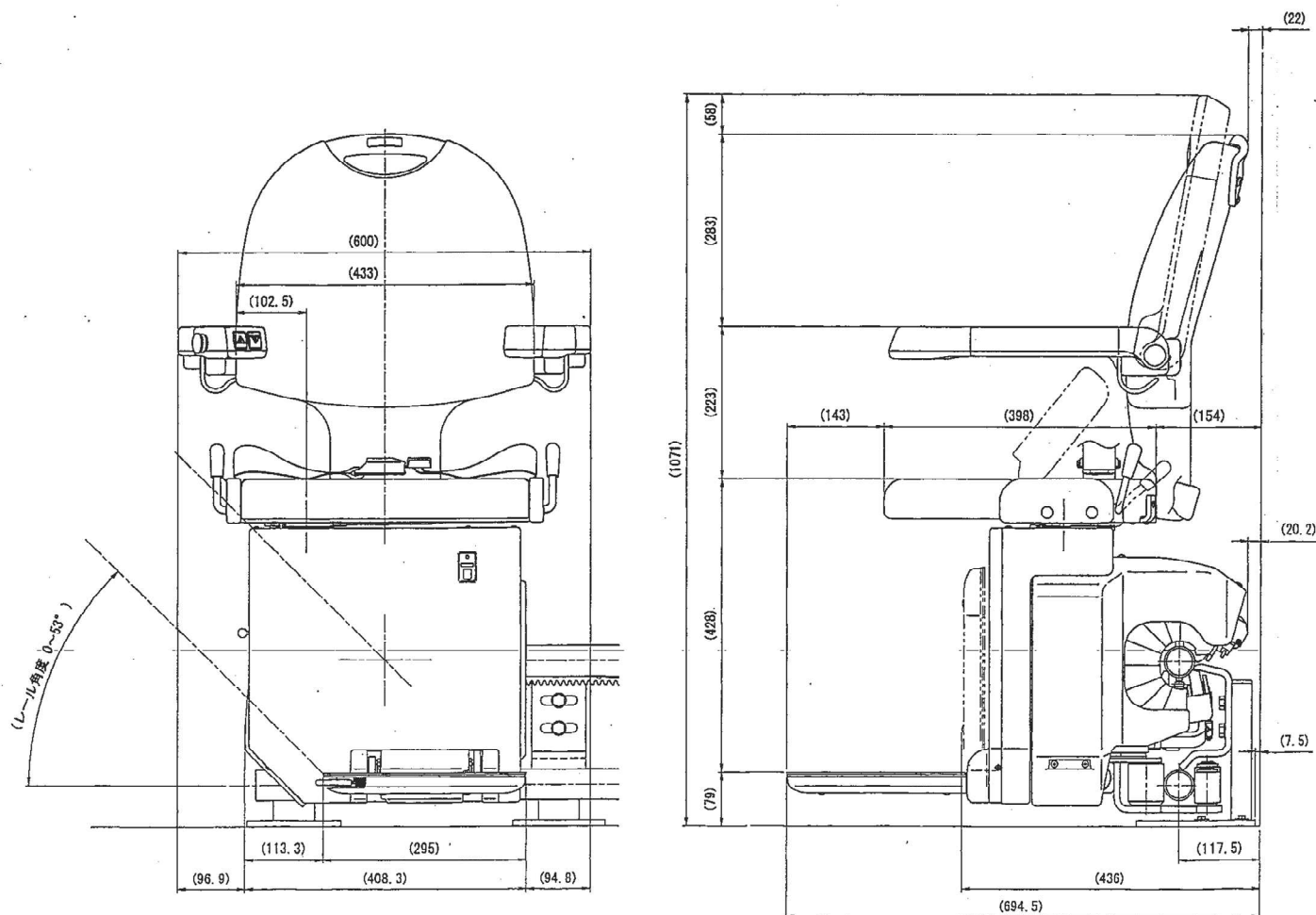
ご不明な点はお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

| 名称／規格 | | 交換時期 |
|--------------------------------|--------------|------------------------|
| ハンドヘルド送信機（呼び戻しスイッチ） | | 約5年 |
| バッテリー 【シール鉛蓄電池 12V（9Ah）×2本】 | | 約3年 |
| ラックカバー | | 60km 走行後または 5000 回昇降 |
| ローラー類 | Mピニオンガイドローラー | 120km 走行後または 10000 回昇降 |
| | ガイドローラーA | |
| | ガイドローラーB | |
| | ガイドローラーC | |
| | ガイドローラーD | |
| | スライドローラーA | |
| | スライドローラーB | |
| | スライドローラーC | |
| | スライドローラーA30 | |

1 4. 仕様・本体寸法

| 形式 (MODEL) | NRE9R&L (屋内) | NRO9R&L (屋外) |
|------------|--|--------------|
| 電源 | 単相 100V 50 Hz/60Hz | |
| | 中速用専用ブレーカー使用 | |
| | バッテリー充電器 | |
| 許容負荷能力 | 900N (92kg) (定員 1 名) | |
| 昇降速度 | 6m または 4m/分 (高/低速) 内廻り時: 3m または 2m/分 (高/低速) | |
| レール角度 | 0 度~53 度 | |
| 階段幅 | 75cm 以上 | |
| イス回転角度 | 上階側のみ 55 度/90 度 | |
| 駆動モーター | 200W | |
| 駆動方式 | ラックピニオン | |
| 操作方式 | 押し続けボタン方式 | |
| 使用環境 | 屋内 0~40℃ | 屋外 0~40℃ |
| 自重 (本体) | 約 90kg | |

定員 1 名、最大荷重は 92kg 以下を遵守してください。



15. 廃棄

本製品を破棄する時は、産業廃棄物として扱ってください。

16. 設置（据付）および移設について

本製品の設置（据付）および移設は、お買い上げの販売店へ依頼してください。

移設の場合は、販売店による点検を実施してください。

17. 商品保証規定

■保証規定

本製品の商品保証期間は、商品引き渡し後1年以内です。

取扱説明書および本製品注意シールなどの注意書きに従って正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、弊社の責任において無償にて部品の手直し、修理、取替えおよび交換部品の送付をいたします。ただし、二次的に発生する損失の保証、および次の場合に該当する故障は保証いたしかねますのでご了承ください。

1. 使用上の誤り、定期点検、保管等の義務を怠ったために発生した故障および損傷。
2. 商品の作動機構に悪影響をおよぼす変更（改造）を加え、それが原因で発生した故障および損傷。
3. 消耗品が損傷し、取り替えを要する場合。
4. 火災、地震、風水害、その他の天災地変等、外的要因による故障および損傷。
5. 指定された純正部品を使用されなかったことに起因する場合。
6. 日本国以外で使用される場合。
7. 保証請求手続きが不備の場合。（例：型式、機体番号の連絡がない場合 etc.）
8. 設置に原因がある故障および損傷。
9. 弊社販売店および弊社以外で行われた修理。
10. 酷使・過失または事故によって生じたと認められる故障。

なお、本製品およびその付属品に使用されているゴム部品等のあらゆる自然損耗する部品、ならびに消耗品については、保証の適用は除外となりますのでご了承ください。

錆・腐食・漏電等や水による故障は保証いたしておりません。

■保証請求方法

上記規定に基づき、本製品の保証請求を行う場合は、お買い上げの販売店までご一報ください。販売店において必要な手続きを実施いたします。

なお、保証の可否は勝手ながら弊社にて判断させていただきますのでご了承ください。

18. アフターサービスについて

| | |
|--------------|---|
| 調子が悪い時 | まず、この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。 |
| それでも調子が悪い時 | 商品規定に従い修理いたしますので、お買い上げいただいた販売店へ修理を依頼してください。 |
| 保証期間中の修理について | 保証期間は納入後1年以内です。商品保証規定の記載内容に基づいて修理いたします。 |
| 保証期間後の修理について | お買い上げいただいた販売店へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。 |
| 補修用性能部品の保有期間 | 本製品の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切り後10年間です。 (性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です) |

アフターサービスについての詳細、その他ご不明な点は、お買い上げいただいた販売店へお問い合わせください。お問い合わせいただく際には、次のことをお知らせください。

型式・機体番号・購入年月日・故障状況（できるだけ詳しく）・表示窓の数字・音声案内（停止アラーム）

※販売店・施工業者の方へのお願い

お客様納入時に、必ず下表に記入してください。

| | |
|-------|-------------------------------|
| 型式 | NRE9R・NRE9L・NRO9R・NRO9L |
| 機体番号 | — — — — — — — |
| 購入年月日 | — — 年 — — 月 — — 日 |
| 購入店名 | 社名： 担当者： 住所： 電話：() — |
| 設置業者 | 社名： 担当者： 住所： 電話：() — |
| 故障日 | — — 年 — — 月 — — 日 |
| 状況 | |

MEMO



販売会社、または施工業者の方へのお願い
この取扱説明書は、必ずお客様にお渡ししてください。



会社ホームページはこちら
<https://bishamon.co.jp/>



本社 〒444-1394 愛知県高浜市本郷町4-3-21 TEL.0566-53-1126 FAX.0566-53-1844
東京 〒146-0083 東京都大田区千鳥2-2-12 TEL.03-3759-9722 FAX.03-3759-9723
大阪 〒537-0002 大阪府大阪市東成区湊江南2-3-22 TEL.06-6747-7617 FAX.06-6747-7618

その他営業所 ホームページをご確認ください。

●ご注文・納期・価格のお問合せ先
本社営業部
✉ sales@bishamon.co.jp
☎ 0566-53-1126
📠 0566-53-1844

●技術的なお問合せ先
カスタマーサポート
✉ support@bishamon.co.jp
☎ 0566-53-2281
📠 0566-53-1617